



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和7年7月16日(水)

兵庫県立八鹿高等学校

校長 山本 宏治

33

令和7年度芸術鑑賞会で、次の話をしました。

今年もまた、「さんしろう」の話をします。三つのことを知ろう、「三知ろう」です。

- 1 自分自身を知ろう
- 2 感謝の心を知ろう
- 3 本物を知ろう

今日はこの3つめ「本物を知ろう」に関連する学校行事です。

その道のプロとしての本物、人生の先輩としての本物に触れることによって、あなた自身の生き方を考える機会にしてほしいのです。

八高の芸術鑑賞会は、原則「演劇等舞台芸術」「落語等日本の伝統芸能」「音楽」の三分野を交替で実施しています。

令和5年度は、八高卒業生でもある落語家、笑福亭鶴笑師匠の話芸に触れる機会を持ちました。プロの技と心、特に「人を見下げたりばかにしたりてとる笑いは、本当の笑いではない、笑いとは人を幸せにするもの」というメッセージが心に残っています。

令和6年度は、本校62回生、世界的に活躍しておられるプロのオペラ歌手、中川郁文さんと二人の若き音楽家より、生きていく道のみずから拓くエネルギーを与えていただきました。

今年度は、神戸で創立して75年の「劇団道化座」による「父と暮せば」という演劇を通じて、あらためて平和について考えます。3年生、2年生の皆さんは、沖縄修学旅行で先の大戦について学ぶ機会がありました。戦後80年という節目の年でもあります。今一度、生きる喜び、学校で友といっしょに学べる喜びをかみしめる時間になりますように。